

三枝庵跡(自得軒砦跡)(入間郡越生町)

ここから太田道真(道灌の父)が築いた砦跡に向かう



正面の車は調査隊の第二クルーザー



左手に三枝庵(自得軒砦)跡へと向かう











ようやく、前方左手に白い説明板が見えてきた







山枝（三枝・山芝）庵

『新編武蔵風土記稿』の龍穩寺の項に「寺中三枝庵門前の小高き所にあり、此所古へ道真入道が居住せし所ならんといへり」とある。

龍々の戸神集落の南東正面の山林中、小字「山枝庵」の「帯」に何段かにわたって斜面を削った平地がある。一番広い平地は約四〇m四方で、その下の平地には江戸期の墓石がある。試掘調査で青磁やカワラケ、北宋銭が見つかった。ことから、中世以降の遺跡であることは確実である。

空堀や土塁などの城に伴う遺構は見受けられず、寺院跡である可能性もあるが、秩父往還の要衝をおさえる軍事拠点にしていたと推定される。

平成二十二年二月吉日

越生町観光協会



太田道灌はこの地で誕生したと記されている



太田道灌生地

自得軒岩跡

(三枝庵)

永享二年(一四三〇)の頃太田道真(道灌父)は扇谷上杉持朝の執事として二十歳の頃この龍ヶ谷山中に龍穩寺を建立し小さな岩を築き自得軒と名づけた。道灌は永享四年にこの三枝庵に生れた。当時は毛呂氏越生氏等地方豪族の残存勢力があり若年の道真に従うことをきらったのでこの奥深い山中に岩を築き防衛したものと思われ東西三百五十間南北四百間程の三段構えで大規模にして且つ要塞堅固な岩である。

のち道灌は江戸城を築き父子ともに名声上り地方豪族も道真の配下に屈し長祿三年五十一歳の頃自得軒と呼ばれる小杉の郷に下り、ここに居館を築き隠居し明応元年二月二日、八十二歳の生涯を閉じた。龍穩寺に葬る。法号を自得院殿実慶道真大居士という。

さまざまな石仏もあった







ちなみに太田道真・道灌親子の墓は近くの龍穩寺境内にある





堀跡なのか





参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/139jitokuken/jitokuken.html>

